

清見寺 静岡市清水区興津清見寺町 418-1

当寺は約 1300 年前の白鳳年間(7 世紀後半)天武天皇朝の頃に創建されたことです。当時は東北の蝦夷に備えてこの地に関所が設けられ清見関と呼ばれ傍らに関所の鎮護として仏堂が建立されました。この仏堂を以って清見寺の始めと伝えています。

また、室町幕府は清見寺を官寺と定め日本を代表する寺で「全国十刹」の中に置き保護し、徳川家康は今川氏の人質として駿府に在りし頃、当時の清見寺住職太原和尚(第一世)より教育を受けたり、慶長 12 年(1607)、朝鮮王朝との国交を回復するため、467 名の朝鮮使節団の来日を実現させ、その宿舎として清見寺を選んだりした歴史に残る寺で、家康お手植えの梅の木があります(パンフ)。



清見が関の跡地



山門に史跡清見寺境内文部省とある 山門の彫刻



本堂



本堂直ぐに座像



五百羅漢



家康お手植えの梅



梵鐘(秀吉葦山城攻撃の陣鐘)



建物には三つ葉葵が多くある



大方丈



遠くから全体建物

